

不
加
立
云
治
三
十
一
全
部
の
事
務
を
代
理
す
海
軍

軍務局長



第一部長



局長



吉野



大正八年

横鎮第三謀長

電報(暗号)

軍務局長

六月十一日起

六月十一日
午前十一時五分
發電済

南洋ノ独人全部ヲ至急退島セラル内談アリ十五日ヤフ
カ予信ノ花味丸ヲヤフニテ待命セシメテ度

南洋ノ独人全部ヲ至急退島セラル内談アリ十五日ヤフ

件

0302

<p>大正八年 六月十一日 發電濟</p>	<p>南防司令官</p>	<p>電報 (暗号)</p>	<p>膠州ヤマトニハ祝待命也ニシテ</p>	<p>トシテヤマトニハ祝待命也ニシテ</p>	<p>ハシラセヨ</p>	<p>ヤマトニハ祝待命也ニシテ</p>
-------------------------------	--------------	----------------	-----------------------	------------------------	--------------	---------------------

海軍

件

0303



供覽

濟

軍令部
供覽

軍務局

濟

經理局

勝

第一課長
第二課長

前田

海軍部

軍

前田

經理局受

8. 6. 6

0304

第三班長

三橋

第二班長

松本

宇馬

(真正印刷)

海軍

大正八年二月三日
安達 正 海軍大臣

安達 正 海軍大臣

覺書

南洋群島ニ在ル敵國人退島ニ關スル件

南洋群島ニ在ル敵國人ハ將來ノ施政上全部退島セシムルヲ有利ト認
ムルニ付次ノ通臨時南洋防備隊司令官ニ電訓致度

(報文計納)

0305

海軍大臣ヨリ臨時南洋防備隊司令官宛電訓案

一、施政上ニ妨害アリトノ理由ニ依リ南洋群島ニ在ル敵國人ニ對シ
速ニ退島ヲ命令スヘシ但宣教師以外ノ者ニシテ施政ニ妨害ナシ
ト認メタルモノハ殘留セシムルモ差支ナシ

二、退島スヘキ敵國人ハ最近便ニ依リ横濱ニ向ケ退島ノコトニ取計
フヘシ

三、私有財産ハ動産ノミ携帶ヲ許シ不動産ハ賣却其他ノ處分ヲ許サ
ス官ニ於テ管理スヘシ

(報文社納)

四、退島スヘキ人名ヲ島別ニ報告スヘシ

海軍

(終)

(報文計納)

0307

大正八年六月六日 起案者
 六月十三日 發付掛
 小林

軍務局長

大 田

副官 小林

第一課長 小牧
 第二課長 小牧

次官

大 田

參事官

大 田

大 田

大 田

法務局長

大 田

大 田

大 田

大 田

軍令部長

大 田

第一班
 第三班

大 田

大 田

大 田

大正八年六月十三日

大 田

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	艦政	人事	軍務	官房	局部
												官房	受月日
													發月日

號番

官房機密第...
 本件...

南洋群島之在之敵國人良島之對之牛
 本件...

外務省

0309

0308

右不
 年

付發付掛
捺印



發付後起
案者捺印

局部	受月日	發月日
官房	六月十日	
軍務	官房	
人事		
艦政		
機關		
醫務		
經理		
法務		
技本		
造兵		
教育		
臨建		
水路		
軍令		

五



封之牛
泰四二號

0309

0308


紙 箋 附

年 月 日

海軍省軍務局

首相ノ報告ニ答ヘテ
左ノ如クハ

右ノ如クハ



以上貴省に官より先商の心也今迄の事は
成り通臨時南洋群島防備隊司令官の要訓
に依りて急務の事なり其旨を周知せしめ
之に努めよ

通牒

(別紙一葉添)

(執)

官房機密第二一號

大正八年六月十三日

五

南洋群島に在る敵國之退去之虞を以て

本件に關し別紙一通臨時南洋群島防備隊司令官の訓

令に依りて及郵告せしむ

(別紙一葉添)

(執)

安田納

0310

八月廿五日

五

海軍

南洋群島に在る敵國人良去之對スル件

在南洋敵國人言動ニ著シ我統治ニ妨害アルモノ

多シ生々新島ヲ退島セシムルニ急務トシテ其ノ

ニ有クモ其ノ罪ノ輕重ニ依リテ其ノ對シテ之ヲ

取多ク退島シテ之ヲ容テスルノ必要ヲ認ムルモノ

洋群島ニ在ル敵國人同令官ニ以テ其ノ罪ノ輕重

由ニ以テ之ヲ分別シテ其ノ對シテ之ヲ容テスル

モノ及ビ其ノ對シテ之ヲ容テスルモノ

不
海軍
第一
葉
終

(坂田 納)

0311

起案罪紙

大正八年六月六日起案

抄案者

前日

六月十三日發付

抄案者

發付後起

案者抄印

(主務) 軍務局長

第一課長

第二課長

小牧

大臣

次官

副官

參事官

局員前日

軍令部

馬

大正八年六月十三日

大臣

臨南防司有官宛

官房第一七四番電報

電報 (暗號)

六月十三日 午前五時五分發電

施政上妨害了りトノ理由ニ依リ南洋群島ニ

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
													六月十日	受月日 發月日

0312

敵國人ニ對シ連ニ退島ヲ命令スヘシ但宣教師
以外ノ者ニシテ施政ニ妨害ナシト認めタルモノハ殘留
セラルルモ善支ナシ

一、退島スヘキ敵國人ハ最近便ニ依リ横浜ニ向テ退去
ノストコ取計ヲヘシ

三、私有財産ハ動産ノミヲ携帶ヲ許シ不動産ハ賣却ヲ
許サス官ニ於テ管理スベシ

四、退島スヘキ人名ヲ島別ニ報告スヘシ

82

起案罪紙

大正八年 六月 六日起案 起案者 (前田) 六月十三日發付 發付掛 (佐本) 案者捺印

(主務) 軍務局長

第一課長 (前田)
第二課長 (小牧)

副官

次官 (大) 參事官

局員 (前田)

軍令部

大正八年六月十三日

臨南防司令部宛

官房第一七五番電報

電報 (暗號)

六月十三日 午後五時 分發電濟

今般退島ノ命ニテハ敵國人ニ對シテハ相當便宜ヲ與ス

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技術	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
												下房受	六月七日	受月日
														發月日

0314

よし然ルハノ其ノ便船ハ左記ニ基キ處理ノ上華兩橫浜
着ノ時日ヲ予定シ通報アリタシ又内地着後ノ取扱ハ日下研
究中ニシテ遠カラク決定ノ筈ナルモ

一通リト承知アリタシ

一、ヤッコノ退島者ハ今次ノ花咲便ニ依リ華兩ニ移スコト、

二、ヤルトト和太ヘモルトヨク退島者ハ勝力ニ便乗セシメトコト

ニテ華兩ニ移スコト、

三、右ニ依リ華兩ノ出帆ヲ多少延ハシ又他ノ便乗者ヲ制

限スルスコトモ支ナシ

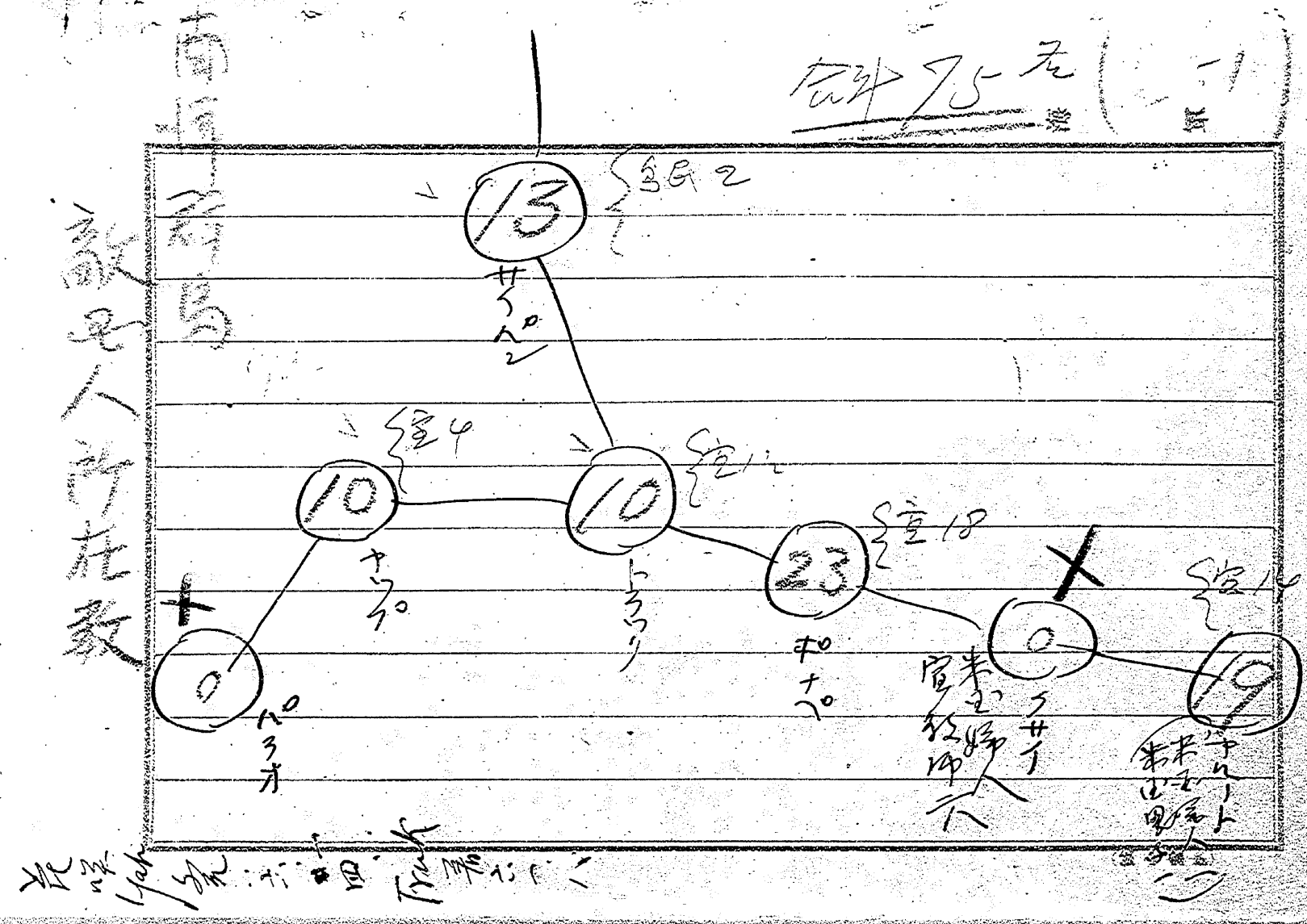
四、官房機密ヲ三ノ番電報第四項ハ自知消滅ノ事得テ

其

(印)

明治印刷

0315



0316

海軍

ヤフ¹⁰ト¹⁰ラ¹⁰フ、サイ¹³バン 在¹⁰留¹⁰ま¹⁰ん 計¹⁰3¹⁰2

古¹⁰月¹⁰二¹⁰五¹⁰日¹⁰ト¹⁰ラ¹⁰フ¹⁰由¹⁰ 華¹⁰西¹⁰便

花¹⁰丸¹⁰古¹⁰日¹⁰言¹⁰ト¹⁰ラ¹⁰フ¹⁰故¹⁰ 西¹⁰四¹⁰中¹⁰ニ¹⁰キ 計¹⁰ヤ¹⁰フ¹⁰ア¹⁰セ¹⁰ル¹⁰ま¹⁰ん
花¹⁰丸¹⁰古¹⁰日¹⁰言¹⁰ト¹⁰ラ¹⁰フ¹⁰故¹⁰ニ¹⁰送¹⁰給¹⁰ス

ヤ¹⁰フ¹⁰ト¹⁰、¹⁹ホ¹⁰チ¹⁰ペ¹⁰ 在¹⁰留¹⁰ま¹⁰ん 計¹⁰4¹⁰2

古¹⁰月¹⁰中¹⁰旬¹⁰交¹⁰代¹⁰予¹⁰也¹⁰ノ¹⁰勝¹⁰力¹⁰便

勝¹⁰力¹⁰ノ¹⁰柳¹⁰本¹⁰見¹⁰揚¹⁰也¹⁰ノ¹⁰ヨ¹⁰リ¹⁰ト¹⁰ 於¹⁰是¹⁰送¹⁰行¹⁰給¹⁰サ¹⁰キ¹⁰也

急¹⁰ニ¹⁰他¹⁰船¹⁰ヲ¹⁰回¹⁰航¹⁰ス¹⁰ト¹⁰ 困¹⁰危¹⁰ナ¹⁰リ¹⁰ト¹⁰ 不¹⁰得¹⁰也

此¹⁰船¹⁰ヲ¹⁰使¹⁰用¹⁰ス

名¹⁰取¹⁰ニ¹⁰ヤ¹⁰フ¹⁰ト¹⁰、¹⁹ホ¹⁰チ¹⁰ペ¹⁰ニ¹⁰在¹⁰留¹⁰ま¹⁰ん¹⁰ト¹⁰ラ¹⁰フ¹⁰也

回¹⁰航¹⁰ス¹⁰船¹⁰ヲ¹⁰回¹⁰航¹⁰ス¹⁰ト¹⁰ 交¹⁰代¹⁰也¹⁰ 古¹⁰月¹⁰二¹⁰五¹⁰日¹⁰由¹⁰ 故¹⁰

頭¹⁰本¹⁰印¹⁰刷¹⁰納¹⁰ 計¹⁰ヤ¹⁰フ¹⁰ア¹⁰セ¹⁰ル¹⁰ま¹⁰ん

0317

海軍

意見

一、敵國へ全部で退島せよ（キヤ否ヤ）

○敵國への籍ヲ有スルモノ約百人（九十七人）中二十八人

トノ浪血見ヤカラス、又他ノ人ニ使用セラルル便宜上

独ニニ籍ヲ有シタル者五人モ若干アリ

之レ等ノ者ヲモ退島セシムルハ勿要

○敵國へ中特統治ノ障害トナル者ハ主トシテ布教ニ

従事スル輩ナリ、其數約四十名

左ハ相當ノ時機ニ退島セシムルハ勿要アリ

但シ左當教師ノ代リトシテ日來ノ宣教師ヲ入島セ

形式トシテ全
部退島ヲ命
ジ出頭者限リ
詮議上致セテ
退島セシムル
ルル方ハ可也
宣教師
形式トシテ全
部退島ヲ命
ジ出頭者限リ
詮議上致セテ
退島セシムル
ルル方ハ可也
宣教師

0318

ニシル必要アリ (支那者関係)

○宣教師以外ニテモ特ニ退島ヲ必要トスル者モ在リ

退島セシムル時機

○媾和條約締結後ト雖モ時機退島知分ナレ得ルニ

知ラトモ旧殖民地ノ主ナル住民數十名ヲ退去セシムルカ如

クハ平和恢復後ノ必要トシテ甚々穩カナラズ (非独和)

ノ事ヲ及ビス

○媾和終結前ナラバ戦時行動トシテ退島知分ナレ得

ルニテ憚ル所ナシ

○媾和強判進行中、退島セシムル時ハ彼等ハ南洋ニ放

(改正印捺)

台電

海軍



我國ノ要政ヲ虚構誇大ニテ揚言シ南洋酋長ノ頌
徳声明ト反對シ結果ヲ惹起スル虞アリ、依リテ退島
ノ實施ハナリテ談判ノ終期ニ近キヲ利トス、

○在支那約西人ノ退放ニ用スル駐支那英米公使ノ提言
アリ(別紙參照)之レニ便乘セシメ得レバ相互ノ便宜大
ナルヲ得、惟モ甚端機ニ送リ届クルニトハ多クノ困難ヲ
伴フナレ

○依リテ最良ノ時機ハ媾和締結前ニ至ラサルヘク之レニ近キニ
アリ、今ヨリ漸々準備ヲ進メ、媾和談判ノ進捗ニ注意
シテ締結以前ニ退島ヲ完了シ得ル如ク取計ヲサシ
ナリト認ム。

(修正印刷)

0320

三、群島外之旅行便之程度

○前項ノ如ク枯支即約西人ノ帰便之便乗セシメ得ルバ
可ナルモ強便確實ノ程度モ不明ナルノミナリ、之ノ間
合セルトハ輸送上困難多シ、但シ其ノ増機快ニ外ニ
好都合トスルハ利用シテ可ナリ

○結局、内地着道ヲ海軍ノ手ニ取計ヒ、其後ハ経商
ノ希望ヲイフルルノ方針ニ出フルノ外ナカラズ
内地着後ノ處分ハ内務外務ノ考慮アリ



(真正印刷)

0321

四、不動産の処分

(研究中)

要するに、左の如くするに力

○成るべく、本人の処分を知命せしむ

吉野部
南洋海軍社(財)
の事務所を移す
他の管理を決定

○ナリ、官上院の關係をせしむ

○已に得られるモノ、横濱(公社) ~~有~~ 社務の整理

ト同様の ~~振替~~ 債権の整理の結果、得るべき処分を決定す

(以東海社に在るべき問題ハ少ナシ)

(終)

(修正印刷)

0322



敵軍ノ南洋退島ハ出来得ぬ如シノ意志ニ依リ退
 島ノ海ヲ以テ針ヲ以テシテ対シテ出来得ぬ如シ
 依リ退島ノ他ニ我民の地ヲ以テシテ退島ノ他ニ
 其の地ハ以テシテ退島ノ他ニ其の地ハ以テシテ退
 島の他ニ其の地ハ以テシテ退島の他ニ其の地ハ以テシテ退

(明正印刷)

〆

一、任意退島せしむる様ニスルコトハ望マシキコトナラズテ任意退島ノ者ト強制退島ノ者トノ間ニ待遇上(旅行、財産等付)多少ノ差等ヲ設クル如キハ或ハ策ナラン

併シナカラモ免罪ノ結果ノ退島處分ニアラス 軍事上ノ必要ニ基ク處分ニ過キサルヲ以テ相當ノ待遇ヲ與フルノ必要アリトヘシ

海軍

(明正印刷)

0324

下其意進動せしむる様子を以て強制退動ノ者ト

二 財 産 関 係 待 遇 上 一 般 財 産 等 一 律 多 少 不 差 等 設 け ば 取 扱 上 策 有 ン 也

二 財 産

任意ノ處分ニ委セス 防備隊ニ於テ管理ニ確定ノ處分ハ講和後ニ於テスルヲ適當トセン

(1) 動 産

動産(金銭等を含む)ノ携帯ハ敵國ノ人モ欲シ又之ヲ許容スルヲモ實害ハ之無カキモ無制

限ニスルトキハ多額ノ有價物カ敵國ニ流入スル虞ナシトセス主義トシテ對敵取引禁止令

ノ精神)面白カラス

(2) 不 動 産

全然官ニ於テ管理ニ置ク可トス

官ニ於テ管理スルハ甚ダ手数敷ニテ寧ろ清算ヲ行ヒ金銭ニ替ヘ之ヲ保管ニ置ク方簡單

ニシテ好マシキ様ニ見エトモ若シ如キ方法ハ外國ニ於テモ敵國人退去ノ結果トシテヨリ寧ろ

口 戰時報復ノ一手段トシテ行ハル形跡ヲ以テ既ニ休戦トスル今日ニ於テ之

(明正印刷社)

ヲ行フニトハ如何カト思ハレモ官ニ於テ管理スルノ例ハ在スニトモハ(リ)カニ燐礦会社
其ノ例ニ倣フヲ可トセン

尤モ管理上ノ必要ニ依リ處分ヲ爲シ金銭ニ替ヘ置クニトモ固ヨリ得ヘキナリ

三、財産管理ノ方法

官自ら爲スニ貸付ノ方法ニ依ル可ナリ。因リテ得タル利得ハ保留シ置キ最後ノ決定ヲ俟
ツヘキナリ。

(明正印刷)

0326

参考

海軍

佛國

一、千九百零五年九月二十七日及び敵國ト高業ヲ禁止スル大統領令
ヲ依リ翌二十日ノ官報ヲ以テ之ヲ公布セリ

二、司法大臣ヨリ各控訴院長及検事長ニ對シテ敕令回章一ヲ
發シ佛國ニ於テ高業農業ニ從事シ居リタル敵國人ノ高店
及會社ノ財産ハ不動産タルト現金其他ノ動産タルトノ間ハ裁判
所ヲテ悉ク之ヲ差押ヘ且管理人ヲ用シテ之ヲ管理セラルベシ

〔目的〕 佛國ヨリ經濟上ノ利益ヲ抽出スルコトヲ防遏ス

財産ヲ没收スル趣旨ニテラス然レバ戰爭後完全ニ
所有者ニ返還セラルルカヤ否ハニ敵國ニ在ル佛國人ノ
財産ヲ完全ニ没收スルニ決セラル

(明治印刷)

0327

伊國

一、千九百十五年六月十四日附敕令ニ依リテ、埃及ニ中國臣民及同居民ニ所屬セル
 動産、不動産ノ賣買、讓渡及ヒ一切ノ權利移轉ニ于テ五月二十四日以前
 二、為セルモノハ法律上無効トシ、且、貨物、信用及、營業者ノ讓渡並
 變更モ亦無効トシ

十九百十五年七月二十日敕令ニテ、前記移轉ノ數口人ニ對シテ、適用スルコトトシ、
 二、報復ノ復仇手段トシテ必要トシ、且、勅令ニ於テ、敵國民及、敵國ニ
 居住スル人民、又、法人ニ屬セル財産ノ押收、管理、債務仕拂停止
 高等勅令ノ通督ヲ受ケ、千九百十六年四月十三日敕令ノ四五一ノ
 規定ヲ適用スルコトトシ、

三、四軍令會決、決戰實行ノ際、千九百十六年八月十日附敕令ニ依リテ、
 敵國又、其ノ同盟國臣民ノ高等勅令及、差押ニ關スルモノトシ、
 敵國及其ノ同盟國臣民ノ經濟ニ及、ハ、優越トシ、利害關係ヲ有

(明正印刷納)

伊國

高業の政府に監督及場合依りてハ若柳ハ清算ニ付ス下
ヲ得。

英國

一、香港ニ於テ九十九年十月二十日附英國臣民清算法ニ依リハ
該國臣民ハ總督ノ許可ヲ證スルニテ高業ヲ經營シ又ハ其所
有財産ヲ處分スルニテ得ス該國臣民ヲ總督員トシテ記入ト
スルハ該國臣民トシテ該國臣民退去後高業若ハ拘禁ノ處分ヲ
受ケルトモ又ハ其等ノ處分ヲ受ケルトモ又ハ其等ノ地ニ
不在トモ又ハ其等ノ事務及人事關係ヲ整理スルタメ總督ニ
於テ清算人ヲ任命スルニ得...

同年五月廿五日
光緒二十五年五月廿七日附改正傍

(明正印刷納)

0329

独逸

一、英國ニ對シテ仕拂禁止令。一露國ニ對スル支拂禁止令。

二、千九百十四年十月二十六日ノ命令ヲ以テ佛口人ノ次直中ニテ陸軍也

元、營業事ニ對シテ強制管理規則ヲ制定公布セリ

蘇邦右部ノ中央官上ハ報復ノ目的ヲ以テ帝國宰相ノ同

意ヲ得テ各部スリ大部分佛口人ノ營業中ニテ強制管理セリ

營業ヲ強制管理ノ下ニ運クコトヲ得

十月二十六日英國人ノ營業ニ對シテ強制管理

(明治印刷)

0330

寫

敵國人民財產
管理事務之條例
敵國人民財產管
理事務局條例
敵國人民財產管
理條例
敵國人民遺送事
務之條例

〔敵國人追放問題〕

在支敵國人ノ追放問題ハ昨年始メヨリ與國公使團ト
北京政府トノ間ニ屢次商議ヲ經一旦追放ニ決シタルモ六
月上旬ニ於ケル「バルサイ」ニ會議ノ結果遂ニ追放ヲ見
合ハスコトナレリ然ルニ本年一月十五日公使團ト陳外交
代理總長ト種々折衝ノ結果再ヒ左記各項ヲ除キ
他ハ全部本國ニ送還スルコトニ決シ支那政府ハ一月二十
六日既ニ之ニ関スル諸條例ヲ發布セリ

左記

第一、二十歳以上ノ老齡者但シハンネツケンヲ除ク

（四十ハ六十歳ヲ超エル由）

海軍

0331

第二、病人ニテ支那政府迄ニ協商國側醫師ノ証明

アルモノ

第三、醫師但シ「リスト」内ニアルモノヲ除ク

第四、公使館領事館文書監守トシテ全猶殘留セル

モノ

第五、協商國側公使ノ保證アルモノ

第六、支那政府ヨリ特ニ免除セラレタルモノ例ハ工業及

教育等ニ從事シ絶對必要缺ク可カラサルモノ

或ハ未決訴訟事件関係者ノ如キモノ

尚追放スルキ人員ハ約三千五百乃至一千人(在支敵

國人現在總數約三千九百餘人内喫國入約四百餘人

此内支那全國ニ於テ独喫宣教師合計百五十七人内

山東省ニ在ルモノ百〇一人ヲ含む但シ俘虜ヲ除クニシテ
大約三月十日上海ヨリ送還ニ着年スル豫定ニテ之ニ
要スル船舶ハ英國ヨリ提供スルコトナリ英國公使ハ既ニ
英本國政府ニ至急派遣方麗請シ又敵支那政府ク
敵國人遣放ニ要スル費用五十萬元ハ在北京外國銀
行聯合ニテ貸出ノコトニ決シハ銀行均分シ之ヲ負擔シ
一月二十七日其一部ヲ財政部ニ交付セリト云フ

0333

起案 郵紙

大正八年 五月十一日起案

起案者 前田

六月十六日發付

發付後起

案者捺印

前田

軍務局長

第一課長
第二課長

副官

小林

次官

參事官

局員

山田

局員

前田

局員

局員

法務局長

局員

局員

局員

局員

局員

局員

軍務局長

次長

第一班長

第二班長

第三班長

大正八年六月十六日

臨南防司令官

次官

官房第一七八番電報

電報(暗號)

敵國人退島ニ関スル稟申一ニ對シテハ意見一通リ

六月十六日發電濟

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
六十三六十六						六一三						官房受	六月十日	受月日發月日

0334

取計ハレ度ニ對シテ、自下關係各方面ト交渉中
ナリ、協命、同意ニシテ

86

明治印刷

0335

秘

大正六年六月

十日

午後

三時

〇分

トラツク

同發

十一日

午前

十一時

五分

無線

局着

發信者臨時南洋群島防備隊司令官

信者大臣

(暗號)電報譯

左記意見稟申ス、至急御詮議ヲ仰ク

一、島民及混血兒ニシテ獨國ニ國籍ヲ有スル者

サイハ島(男三、女七)ヤツプ島(男二)若クハ

國籍不明ノ者、ヤルト島(男六十、女三十七)ハ

希望アル以外強ヒテ退島セシムル必要ナカル(シト

思考ス)

二、敵國宣教師退島ノ曉ニハ統治上邦人宣教

師ヲシテ至急之ニ代ラシムル必要アリト認ム

軍務局

海

軍

3

0336

供覽



軍務局

第一課
第二課

第二課

司員 前印

海軍

6-16

大正八年六月

小林日

軍務局長

南防司令官宛

電報 (暗號)

勝力ハウセラシ島及びリキエブ島ニ立寄ラサルトトシ

是非退島ヲ要スル者アバ後日詮議ノエトトセラシタシ

二、混血児及國籍不明者ハ上申ノ通り處理ノエトトシ官及令滿

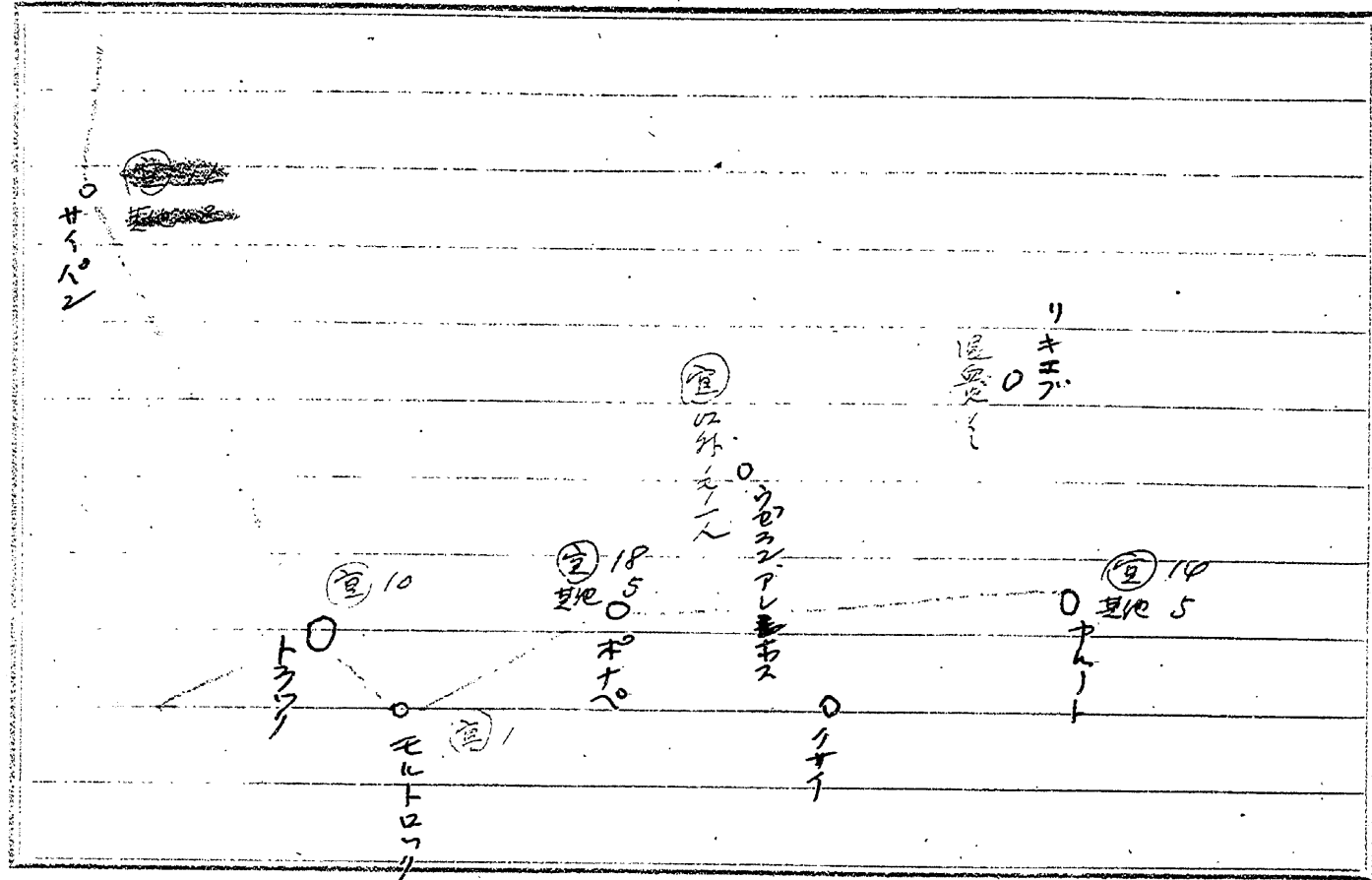
戒ルベシ

三、サイハニ島ノ者ハ今回ノ華兩便ニテ収容ヲ希望スルモ特

ニ支障ヲ伴フヤ否承認シタシ

(明正印附)

0337



(真正印複製)

スベシ依テ、埃際勝力ノ行動ヲモルト
 ロック列嶼、ポナペ島、ヤルイト島ノ三島
 トシニ三日中ニ出港セシムレバ、今次ノ
 十一回) 華丙便ヲ少シク延ハセバ、間ニ
 合フベシ
 混血児ノ大多数、國籍不明者ニシテ
 マーシャル群島内各島ニ散在シ、統治上妨
 害タルノ憂ナシ、敵國ニ籍ヲ有ル土人又
 同シ依ツテ上申ノ通り詮議アリ度
 サイパン島ノ者、滿州帰航ノ際收容シテ、
 如何返シテ

(明正印刷)

軍務局



二七七

大正 戊午年 六月

十五日

午後 一時、分
トヲツク局發

十七日

午後 五時五十分
無線局着

發信者 臨時南洋群島防備隊司令官

受信者 大臣

(暗號) 電報譯



六月十四日土人及混血兒ヲ除ク敵國人全

部退島ヲ命セリ

右報告ス

(六月十五日)

第一號



海軍

0341

秘

二八

大正 八年 六月 十七 日

午後 一時 〇 分 ト ラ ッ ク 同 發
午後 九 時 六 分 無 線 局 着

發 信 者 臨 時 南 洋 群 島 防 備 隊 司 令 官

受 信 者 大 臣

(暗 號) 電 報 譯

六 月 十 五 日 發 ノ 花 咲 丸 ニ テ ヤ ツ プ 島 敵 國
人 全 部 退 島 セ リ
右 報 生 口 ス

(了)

海 軍

(加 蓋 印 湖 鈔)

0342

華南出港期ノ件搭鉄刻及工電伝通知前

前田

スレエテ
親友中カ
ルズレ

軍務

大正八年六月十七日

日午後

時分

局著

海軍

受信者

軍務局長 必

発信者

臨時南洋群島防務司令官

電報譯

前田

一、マゼラン、アレシホス敵國人、ヤルト会社ノ使用人
 七、同会社支店長、退去ト同時、彼我得
 策ナリト信ス、六月十七日勝力貴意了兼、上
 復執収容ス、キ旨ヲ傳、ハ、タン、苦ニ付、天候支障
 アラハ他日ニ讓、今田華兩便ニテ退去セシメ、度
 二、勝力上ラク着、六月廿日華兩出港、七月百ト示
 定ス

(改正印刷)

0343

海軍

三、リヤーブ島、寄港ヲ取止メタリ
四、ウゼラン、アレシホス退島者ハ今田ノ華内便ニテ
輸送差支ナシ 五月十七日

(明治御紀)

0344

軍務局

秘

二八一

大正八年六月十七日

午後一時〇分トラジオ局發
午後九時六分無線局着

發信者臨時南洋群島防備隊司令官

受信者大臣

暗號電報譯

六月十五日發ノ花咲丸ニテ「ヤツ」島敵國
人全部退島セリ
右報告ス

第...

前申

了

外...

海軍...

海

軍

0345

供覽



官房第一
機密

軍務局



第一課



大正八年六月十九日

次官



海

軍



八四番電報

電報

六月十九日 午後四時五十分 發電濟

報告アリタシ
今回退島セシタル敵國人ニ関シテノ件ニ成ルニシテ速ニ

- 一、退島者ノ員數ヲ島名、男女、ト見ニ分ケタルモノ
- 二、宣教師及其家族ト在以外ノモノト分ケタル員數
- 三、内地到着ノ予定期日



(明正印刷納)

0346

6019

合計	男	女	小児	計	男	女	小児	計	合計
ニ〇	一八	一	三九	一五	六	一〇	一三	二八	〇
三	一	三	六	一	三	三	一	八	二
三	九	三	五	六	六	二	〇	一	二
/	/	/	/	三	二	七	一	一	二
三	〇	/	三	四	/	/	四	一	四
一	五	二	八	三	二	一	六	〇	四
五	四	一	〇	/	/	/	/	/	〇
四	/	/	四	六	二	五	一	一	一
男	女	小児	計	男	女	小児	計	合計	
宣教師及家族				其					
				他					

南洋群島退島者調(南洋司命監報(普))

0347

軍務

局

大正八年六月十九日

午前 午後

時

分

局著

海軍

発信者

福南防司令部

受信者

軍務局長

電報譯

勝カハ風波ノ為ラセラレシホスニテ陸上トモ交通
出来ザリレヨリ同島敵国人ニ南洋貿易会社
帆船ニテ收容ホシ島ニ移スニトモ期日方リ
次貴通報

第一課
第二課

同田

同田

同田

(列正印刷)

0348

軍務局長

軍務局

大正七年六月

二十二日 午後二時〇分トラツク局發
二十三日 午前〇時三十五分無線局着

發信者 臨時南洋群島防備隊司令官

受信者 大臣

(平文) 電報譯

退島ヲ命セル者 宣教師其ノ家族及徒弟
ヤツプ 男四 トラツク 男五 女四 小兒一 ポナ
男十一 女五 小兒二 ヤルト 男三 女十 計
四十五 其他 男三 女二 小兒七 ヤツプ 男六
二 小兒二 ポナ 男四 女二 小兒一 ヤルト 男
四 計三十二 總計七十七、内 病氣等ニテ最
近 便乘シ得サル者 宣教師其ノ家族及徒
弟 男三 女一 小兒二 其他 男一 除キ七十八

海軍

0349

海軍
三

華丙ニテ送付ス

華丙七月一日トラツク發サイパンニ見ヲ

經テ九日横濱着ノ豫定横濱着ノ時日ハ

二十三日再報ス

海

軍

0350